

# 埼玉県オハイオ州スカラシップ機械工学科系レポート 4月分

## 「第2の故郷とのお別れ」

### Nissin Ohio Brake

4月初めにデータを取り終え、データの分析に入りました。最初の3回の計測では、新しいパンを5番のマシンに設置し、4回目の計測から新しいパンを4番のマシンに設置しました。黄色は新しいパンを使用した時を表します。図を見て分かるように、同じマシンでも、日によって値が大きく変わることが分かります。3から6までの各マシンの比較をしても、ばらばらの値を取ります。今回新しいパンを使用

Dross from pan(g/a day)					Dross from pan(g/a day)				
	TMC3	TMC 4	TMC5	TMC6		TMC3	TMC 4	TMC5	TMC6
3/15 (12:30pm) - 3/17 (11:30am)		0	6.5	83.9	3/15 (12:30pm) - 3/17 (11:30am)		0	6.5	83.9
3/17 (12pm) - 3/21 (4:00am)	16.5	7.5	23.3	11.5	3/17 (12pm) - 3/21 (4:00am)	16.5	7.5	23.3	11.5
3/21 (4:00am) - 3/24 (11:30am)	80.9	25.9	32.0	11.3	3/21 (4:00am) - 3/24 (11:30am)	80.9	25.9	32.0	11.3
3/28 (12pm) - 3/31 (11:30am)	101.6	23.9	138.6	26.1	3/28 (12pm) - 3/31 (11:30am)	101.6	23.9	138.6	26.1
4/4 (5am) - 4/5 (11:30am)	35.6	54.4	210.5	23.9	4/4 (5am) - 4/5 (11:30am)	35.6	54.4	210.5	23.9
4/5 (12pm) - 4/7 (11:30am)			50.8	5.7	4/5 (12pm) - 4/7 (11:30am)			50.8	5.7

酸化物（ドロス）の量比較

したマシン4では、前半3回の、通常のパンを使用した時の方が、新しいパンを使用した時よりも酸化物が少ないことが分かります。同様に、マシン5では、新しいパンを使用した時の方が酸化物は少ないですが、通常のパンを使用中は、酸化物の量が急に増えました。これらから推測されるのは、各マシンの個体差、パンの形状よりも、パンに塗るコーティングが原因だと考えられます。具体的には、コーティング剤の塗られる量、頻度が毎回均等ではない、酸化物が出始めてからコーティングをし始める、と考えました。これらを踏まえ、4月21日に私と諫山さんのプロジェクトの最終結果を報告するプレゼンテーションを行い、今までの成果を発表させてもらいました。大きな成果とはいかなかったものの、プロジェクトを通して沢山のことを学ばせていただいた Nissin Brake Ohio のみなさんには本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

### International night

インターナショナルナイトとは、フィンドレー大学にいるインターナショナルの学生が、自国の料理、ダンス、服装などのそれぞれの文化の良さを伝え合い、表現する場です。そして、各国の文化を見て、聞いて、触れて、文化の違いを知り、理解していく場です。私たち日本人のブースでは、うどん、巻きずしの提供と、茶道、書道体験を行いました。各国のパフォーマンスも行われました。私たちは、よさこいを踊りました。



それぞれの国のブース、パフォーマンスはどれも魅力的で、興味深いものばかりでした。食事・衣服は土地や宗教によってこんなにも違うことに驚きました。各国の文化をいきなり受け入れようとするのは難しい事です。まずは「自分の目で見て、自分の感覚で面白いと思うものから取り入れてみる」、これが異文化を受け入れるために大切な最初のステップだと思います。

最終的に、インターナショナルナイトの意義としては、各国の良い文化の面を共有する事だと思います。9カ月アメリカで過ごしたことで、話すこと、聞くことの力は大きく付きました。

しかし、私が友達にこの経験を伝えるとしたら、英語が出来るようにしよう、海外へ行こう、とは言いません。日本には、まだまだ私の知らないことがたくさんありますし、生涯を日本で暮らす人ももちろんいます。私は、友達に海外行くことを進めるより、今いる自分の外の世界に目を向けてみることを勧めます。

人それぞれ、自分の行動範囲があります。その行動範囲よりも少しだけ外に出てみるのです。未だ見たことのない外の世界には、もしかしたら自分が本当にやりたいことが待っているかもしれない、本当に仲間と言える存在が見つかるかもしれない。外の世界には自分が注目したことが無かっただけで、たくさんの面白い可能性がある、本当に求めていたものが待っているかもしれない、ということを私は伝えていきたいです。

## 別れの時

ついにこの時がやってきてしまいました。分かっていたけれど、いざこの時がくるともっと一緒にいたかったな、もっといっぱい話せばよかったな、もっと一緒に遊びに行きたかったなどと、後悔がやみませんでした。帰りたくないのが本音です。日本に帰ることが実感できないです。まだここで今まで通り勉強をして、時間が空いたら友達と遊んでいるような気がしてならないです。それくらいここで生活は、私にとってなじんでいたのです。私を育ててくれたこの場所はまさに第二の故郷と言えます。



何もできないところから始まったフィンドレーでの生活ですが、**Jelen とのお別れ写真** 終わってみれば、充実した生活が送れていたのだと気づきました。私に関わってくれたすべての方に伝えたいのは、「一緒にいてくれてありがとう」「支えてくれてありがとう」です。

アメリカに来た頃は、ゼロからのスタートでした。全て自分で行動して環境を作っていかなければなりません。そんな中、私と付き合ってくれて出かけたり遊んだりバカをやる大切な友達が出来た時は本当に嬉しかったです。出身国や、文化が違って、分かり合うことができたのは、お互いを理解しようとしたからに違いありません。私の成長する

姿を楽しみにしてくれ、それがいつしか私の支えの一つになっていました。離れ離れになってもわたしたちはずっと仲間です。